

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372400537
法人名	医療法人メディライフ
事業所名	グループホームひいらぎ
訪問調査日	平成 20 年 9 月 23 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 20 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2372400537		
法人名	医療法人メディライフ		
事業所名	グループホームひいらぎ		
所在地	愛知県半田市岩滑中町4-180 (電話) 0569-25-0665		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年9月23日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】 (平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年5月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人
職員数	17人	常勤 5人, 非常勤 12人, 常勤換算 8.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,100円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	78歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あベクリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の医療法人が地域の在宅介護に貢献しようと設立したホームである。静かな住宅地にある民家改修型のホームの外観は年を経る毎に地域に馴染み、周りの民家と違和感無く存在している。ホームの方針として「利用者の気持ちを第一に」、「その人らしい生活をホームで継続支援する」を掲げ、管理者と職員が一体となって取り組んでいる。居間では食事作りの音や匂い、会話や笑い声が聞こえ、入居者が安心して生活している様子がうかがえる。母体の医療法人によるバックアップもあり健康面での支援は充実しており、体調が重度化した場合でも、本人や家族の意向に沿った支援体制が取られている。終末期ケアにも取り組み、ホームでの「看取り」の経験も何例もある。職員が入居者を尊敬する姿勢を保ちつつ馴染みの関係を築き、互いを思いやりながら生活する様子は、あたかも家族のようであり、グループホームの原点を見た気がした。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害時の対応について、防災訓練の実施と食料、水の備蓄を行った。職員間の情報伝達については、日誌、連絡ボードの活用、携帯メールも利用している。研修への参加は常勤、非常勤を問わず支援する仕組みの充実を行った。見守り支援を心がけ、内に居るのではなく、一緒に外へ出る支援の方針を決めた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4、5、6)
	職員全員が自己評価に参加し、サービスの質の向上のきっかけとして活用されている。改善項目については、少しずつではあるが、優先課題から取り組もうとする姿勢がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	今年度から民生委員が参加するようになり、より地域に密着した情報、意見交換ができるようになった。ホームが家族や地域に対して、認知症理解の為の役割をどの様に担うかを検討し、意見交換を行なっている。現在、民生委員や町内会、老人会、ふれあい委員との連携のあり方を検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居時に苦情申し出機関について説明を行っている。ホーム側から家族へ接する機会を出来るだけ増やし、意見、要望、苦情を言い易い関係作りが日頃から心掛けられている。家族からの意見は入居者本位に立ち、出来るだけ対応できるよう前向きに検討する方針である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会に加入し、地域の盆踊りや敬老会の行事に参加している。回覧板も入居者と共に回している。野菜を持ってきてくれる人や、散歩の途中での挨拶や世間話をする機会もある。地域の「ふれあい委員」の定期訪問は、地域とホームとの交流の橋渡しの役割を担っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「そのままの人生をその人らしく生活をしてもらうこと」を理念とし、買物をしたり遊びに出かけたり、ごく普通のあたりまえの生活が出来るよう、安心して暮らし続ける個別性の対応の支援が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やミーティング、月1回の外食会を行い、職員間で話し合いがもたれ、定期的に理念「安心と尊厳のある生活を」の確認が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、老人会に加入し、地域の盆踊りや敬老会の行事に参加している。回覧板も入居者と共に回している。野菜を持ってきてくれる人や、散歩の途中での挨拶や世間話をする機会もある。地域の「ふれあい委員」の定期訪問は、地域とホームとの交流の橋渡しの役割を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価に参加し、サービスの質の向上のきっかけとして活用されている。改善項目については、少しずつではあるが、優先課題から取り組もうとする姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に開催されホームの現状や課題についての話し合いや意見交換が行われている。	○	今後は、全ての職員が順番に参加できるような体制を考え、参加者からの意見や要望がホームの質の向上に活用できるような仕組み作りを検討する事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課との連絡は、窓口に行ったり、電話連絡をする等頻繁に行われ、連携が取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族会を開催している。また、家族へのお知らせノートを作り、ホームでの暮らしぶりを個別に写真を添えて報告している。訪問の少ない家族に対しては、電話での報告も行われている。ホームだよりについては検討中である。	○	今後は「ホームだより」の作成について、具体的に検討される事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情申し出機関について説明を行っている。ホーム側から家族へ接する機会を出来るだけ増やし、意見、要望、苦情を言い易い関係作りが日頃から心掛けられている。家族からの意見は入居者本位に立ち、出来るだけ対応できるよう前向きに検討する方針である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えるようにしているが、異動の場合は入居者に説明している。ミニ送別会には入居者、家族、ボランティア、学生など一緒になって職員の送別会をして、入居者の不安をなくす工夫がされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の研修計画が立てられており、レベルアップの研修には常勤、非常勤全ての職員に勤務の中での対応をしている。毎月の勉強会で報告をしている。また、研修費については補助があり、申請をすれば受けられる仕組みがある（パートも含む）。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム推進会議は、2ヶ月に1回実施されている。地域のグループホーム会議や研修に積極的に参加し交流の機会を作り、電話での情報交換をするなどサービスの向上につなげている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際に家族の負担にならないように配慮しながら事前に家庭訪問をし、職員の顔を知っていただくことや見学を受け入れたり、2週間の体験入居を実施できる体制がある。本人の気持ちを大事に外泊、外出を組み入れた対応をして、徐々に馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活暦を把握し、一人ひとりの思いを大切にしながら、職員も家族であるという意識で接している。ホームの生活は日常的に家族の一員として教えてもらう姿勢にあり、生活を支えあう関係作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を大切にし、外出が好きな人、お洒落が好きな人、理容院、美容院にこだわりがある人等出来るだけ希望に叶うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会議を月1回開催し、家族からの意見を聞き、スタッフ会議では活発な意見交換がされ、職員の意見も反映され本人本位の介護計画書を作成している。チームケアの重要性を十分理解し、実施されている。家族会欠席や面接の機会が少ない家族には、生活の状況など電話などで報告し、希望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は原則3ヶ月ごとに見直しをしているが、状態変化が生じた場合は、必要関係者と話し合いがされ、その都度現状に即した見直しが実施されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望する、理美容院の送迎、外食、花見など本人や家族の希望に応じた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携が24時間体制で出来ている。2週間に1回の往診もあり、健康チェックが行われている。家族が希望するかかりつけ医の受診は、原則家族支援ではあるが、家族の都合や希望により事業所支援も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアを取り入れており方針について意思の共有はできている。看護師、医師、家族等の協力で、開設以来2人看取った経験があり、職員の不安がなくなり現在も重度の方の支援をしている。年1回、事前に指示書を作成し家族や入居者の意向確認を行っている。	○	ホームの方針を文書化すると共に、入居時にも説明をする事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応などは、定期的に話し合いの場所を作り、馴染みの関係をもちながら、職員は入居者に尊敬の気持ちを持って接している。個人情報書類は保管庫に収められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりを大切に、自分のペースで過ごせるように職員間で協力し合い、希望に沿って1日楽しく過ごせるよう支援している。食事の準備、片付け、花の水やり、洗濯物干し、たたむ作業、魚のえさやり等出来る事をして頂く支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や意見を取り入れた献立作りが行われている。畑で収穫した野菜が食材に使われており、食事中的話題となりとても和やかで家庭的な雰囲気である。入居者の身体状況に応じて「出来ること、やりたいこと」に対応出来るよう支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調が良ければ、毎日希望の時間に入浴できる支援が行われている。夕食後の入浴希望者に対しても対応し、実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の身体状況に応じて食事の片付け、花の水やり、魚のえさやりなど自発的に出来るよう支援している。また、趣味の折り紙、毛糸編みなどの楽しみを取り入れ、一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物の希望があれば、その日の気分にあわせた支援をしている。入居者の気分転換を図る目的で、喫茶店や外食などの機会を多く取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中かけられていない。門扉の施錠はしているが、民家改修型ホームの為、ごく普通の家感覚で違和感はない。現在は見守り支援を心掛けると共に、一緒に外へ出る事で対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は地域の防災訓練に参加し地域の人や隣近者と交流を図り、日頃から協力が得られるように声かけをしている。避難方法の1つとして、週1回、階段避難訓練を行っている。市が実施した1泊の避難訓練には、職員と共に入居者全員が参加し体験を行った。法人のマニュアルを利用している為、ホームの現状に即さない部分がある。	○	ホーム独自の災害時対応マニュアルを作成することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回体重測定を行い、食事摂取量は克明に記録され体調の変化には細心の配慮がされている。但し、水分摂取量の記録が一部の体調不良の入居者のみとなっている。	○	1日の水分摂取量の目安を定めた上で、入居者毎のおおよその摂取量の把握をすることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カセットテープ（懐かしの唄）から流れる音量、職員の声かけなども適度であり、不快感は感じない。共用空間は季節の花や入居者自作の作品を飾り、目を楽しませてくれている。椅子も安定性に配慮された物であり、入居者の体型に合わせて足元には台が利用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や写真など思いの深い大切な物が置かれ、状況に配慮しながら個々に応じた居室作りの支援が行われている。		

※  は、重点項目。